あなたをやさしくエスコートする…

カワムラサイクル

保管用
よくお読みください
保証書別途

ＦＡ（適合くん）シリーズ

取扱説明書

安全に関するご注意	1
1.同梱部品の確認	6
2.安全ラベル	6
3.各部名称	7
4.操作方法および使用方法	8
5.安全ベルトの使用方法	12
6.ブレーキの使用方法	12
7.シートの調整方法	13
8.お手入れの方法	14
9.車いすの保守・点検	15
10.車いすの主な乗り方	16
11.仕様	17
12.製造番号	19
13.保証	20

このたびはカワムラサイクルの車いすをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この取扱説明書は、商品を安全にご使用いただくために必要な注意事項や正しい使用方法が記載されています。

※ご使用になる前に必ずお読みください。また、ご利用いただく際には必ず携帯してください。

KAWAMURA 株式会社カワムラサイクル

安全に関するご注意　※ご使用になる前に必ずお読みください。

[表示マークの説明]

⚠ 警 告　この表示は「人が死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

⚠ 注 意　この表示は「人が障害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

⃠ 禁 止　この表示は、してはいけない「禁止」の内容です。

※ 以下の注意点以外であっても、無理な使用はおやめください。事故の原因になります。

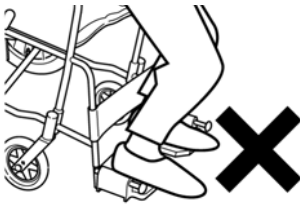
⃠ 禁 止

● 道路通行の際は、必ず右側通行してください。また、歩道を通行してください。

⚠ 警 告

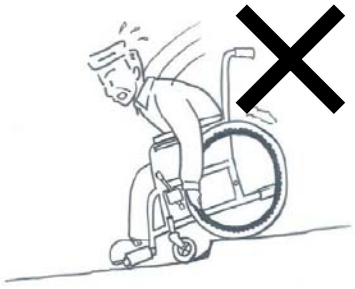
●車いすに乗り降りの際は、必ずステップ板（フットサポート）を上に跳ね上げてください。

※絶対にステップ板（フットサポート）の上に乗って車いすに乗り込んだり、降りられるときに立ち上がらないでください。車いすごと転倒し危険です。



●車いすを火気に近付けないでください。

※シート部が燃えたり、プラスチック等が変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど、危険です。

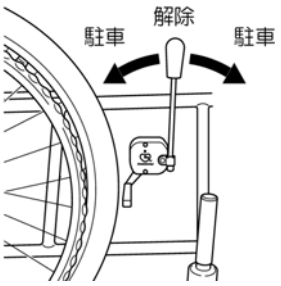


●段差や凸凹などのある路面等を走行するときは、身体が前のめりにならないよう充分ご注意ください。

●車いすに乗り降りの際は、必ず駐車ブレーキをかけて車いすが固定されていることを確認してください。

※傾斜地では駐車しないでください。傾斜地では駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があり、大変危険です。

※滑りやすい床面では駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があります。



⚠警告

●踏み切りを横断の際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。斜めの角度で進入するとレールの溝にはまって危険です。必ず介助者と一緒にわたってください。

●坂道の上り下りの際は、必ず介助者に支えてもらって行ってください。上るときは前向きで、下るときは後ろ向きで走行してください。

※坂道を前向きで下ると乗っている人が前へずり落ちる、前へ倒れる、スピードが出やすいなど、非常に不安定になり危険です。また、介助者がバランスを失った時も危険です。

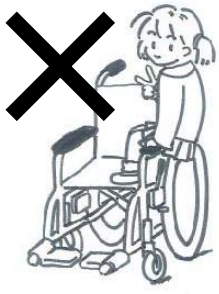
●走行中は、足を必ずステップ板（フットサポート）の上に乗せておいてください。

※ 足を地面に付けたりステップ板（フットサポート）から外すと、ステップ板（フットサポート）と地面の間に足が巻き込まれてケガをする恐れがあり、危険です。

●ポケットには軽いものをいれてください。過度の荷物はバランスを崩し危険です。また、押手に荷物を吊り下げますとバランスを崩し危険です。絶対に避けてください。

●勝手に改造・分解しないでください。強度や耐久性が劣化して危険です。また、事故になる恐れがありますので絶対に改造・分解しないでください。（保証対象外）

●介助者は、絶対に車いすに乗って介助しないでください。



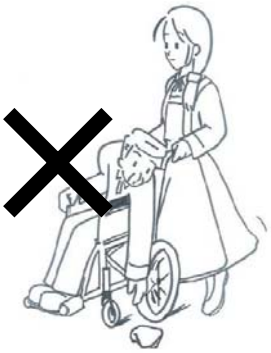
●車いすを物品運搬など車いす以外の目的に使用しないでください。

●座シート部以外に腰掛けないでください。

●傾斜地での走行は、車いすが予想外の方向に進むなど、大変危険です。

⚠警 告

●車いすでの走行中は、身体を乗り出さないでください。
車いすが不安定になり危険です。

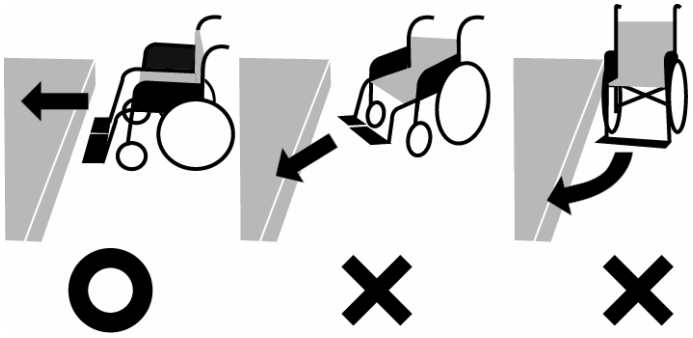


●段差の前では一旦停止してティッピングレバーを利用して乗り超えてください。決して勢いをつけて乗り超えないでください。大変危険です。また、フレーム及びキャスタ車輪等の損傷を受けます。

●シート（クロス）パイプがシート（クロス）受けに収まっていることを確認してご使用ください。万が一、シート（クロス）受けから浮いた上体でご使用されますと、フレームが歪んだり、故障の原因となり事故につながる恐れがあります。

●シートがやぶれた場合は、必ずシートを交換してください。
また、故意にシートを切断する等の加工を絶対にしないでください。シートを破断したり、加工した状態でご使用されますとフレームが歪んだり、破断する原因となります。また、シート取付ネジが歪んだり、欠落すると事故の原因になります。

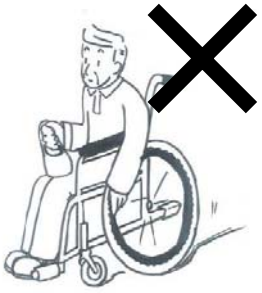
●発進するときや段差を乗越えるときには、キャスタのタイヤが真っ直ぐになっていることを確認してから走行してください。斜めに進入したり、キャスタタイヤが斜めになった状態で発進すると段差を乗越えられなくなったり、キャスタの破損やキャスタからタイヤが外れる原因になったり、事故の原因となる恐れがあり大変危険です。



●車いすに座ったまま前方の地面に置いてある物を拾う等、強い前傾姿勢をとらないでください。
車いすごと転倒し危険です。

⚠注 意

●走行する際には片手で操作しないでください。傘をさしながら、また片手に荷物を持ちながらの片手操作ではバランスを崩す原因にもなります。両手で操作し、バランスを保ちながらゆっくりと走行してください。

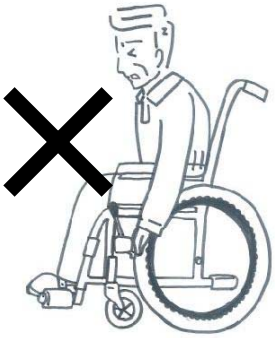


●車いすを投げたり落としたり、衝撃を加えないでください。

●夜間、雨降りは通行者や車から発見しにくくなります。充分にご注意ください。

●回転している車輪に指を差し込まないように注意してください。

●タイヤをもって車輪を操作しないでください。
ブレーキ等で指をはさみ、大変危険です。



●認知症（痴呆症）の方がご使用される場合は、必ず介助者が付き添ってください。また、車いすのシート、部品等を飲み込むことや一度かけた駐車ブレーキを不意に解除されることがありますので、充分ご注意ください。

●安全ベルトは、必ず装着してください。

●介助者の方は、搭乗者の身体の一部または衣服がタイヤ、スポーク、キャスタ及び地面、建物、通行者に触れたりはさまったりしないよう、車いすに安全に座れているかを確認してから操作してください。

●車いす乗降時や移乗時には、必ず介助者が付き添ってください。

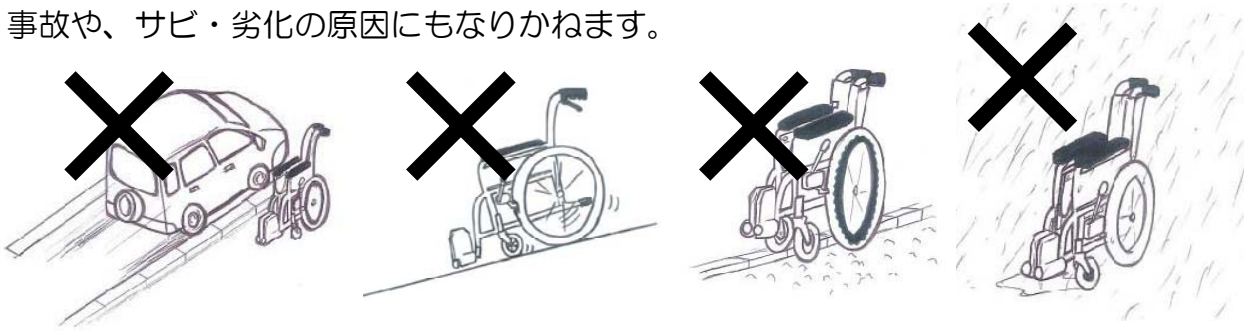
⚠注 意

●下記のようなところに車いすを放置しないでください。

・車道に近いところ　・人通りのあるところ　・路面に段差や凸凹のあるところ

・湿気の多いところ　・雨風の当たるところ

事故や、サビ・劣化の原因にもなりかねます。



●ブレーキは必ず手で操作してください。足などで操作するとブレーキが破損する恐れがあります。

●ブレーキレバーの作動方向以外に力を加えないでください。また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形・破損する恐れがあります。

SG マーク制度について

※弊社では、認定を受けた全ての商品にＳＧマークを貼付しています。

ＳＧマーク制度は、ＳＧマーク付製品の欠陥により発生した人身事故に対する賠償制度です。事故原因や被害の程度に応じて、製品安全協会が賠償措置を実施いたします。

（ただし、消費者側の一方的な過失、もしくは誤使用に基づくような場合は除きます。）

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラストや内容が一部実車と異なる場合があります。

1.同梱部品の確認

本製品には、以下の部品が同梱されていますので確認してください。

・工具、説明書　　各１個

2.安全ラベル

- 取扱上の重要な事項を記載した安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
- ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。

⚠注 意 ケガをするおそれがあります

●可動部分を持って持ち上げないでください。
●認知症（痴呆症）の方が使用される場合は、必ず介助者が付き添い、安全を確認し、ご利用ください。
●座面が確実に固定されていることを確認してください。
●手や衣服をはさまないようにご注意ください。

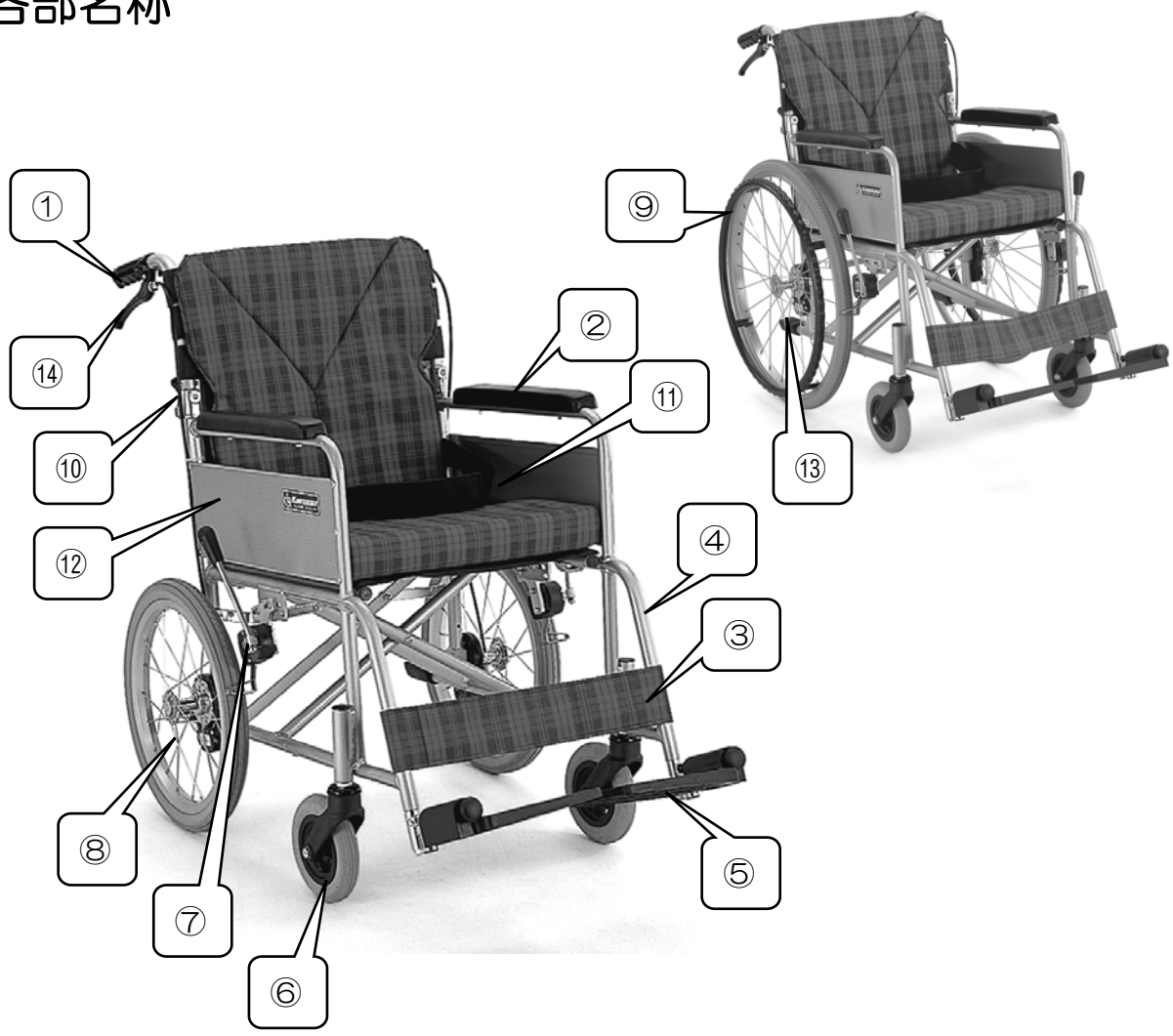
右側板（内側）

左側板（内側）

⚠警 告 転倒してケガをするおそれがあります

●取扱説明書はよく読み、必ず携帯してください。
●乗り降りの際には、必ずステップ板を跳ね上げて、駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認してください。
●地面に置いてある物を拾う等、強い前傾姿勢を取らないでください。
●段差などを越える場合、前輪を浮かせ過ぎないでください。
●最大積載重量以上の重量で使用しないでください。
●アームサポートが可動式の場合は固定されていることを確認してください。
●フットサポートが可動式の場合は固定されていることを確認してください。
●駆動輪やキャスタが外れないことを確認してください。
●座面以外に腰掛けないでください。

3.各部名称

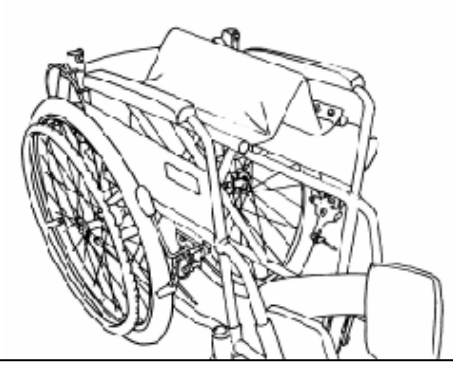


①押手（手押しハンドルグリップ）	介助者が車いすを移動させる際に握る部分です。
②肘掛け（アームサポート）	肘を置いて身体を安定させます。
③足ベルト（レッグサポート）	足が後ろに落ちないように支えます。
④脚部（フットレッグサポート）	足を支持する装置です。
⑤ステップ板（フットサポート）	足をのせる板です。
⑥前車輪（キャスタ）	自在に方向転換できる小車輪です。
⑦駐車ブレーキ	車いすを駐車する時に使用します。
⑧後車輪	駆動輪です。
⑨ハンドリム	自走するときに使います。（自走用のみ）
⑩背折れ金具	車いすを折りたたむ際、さらにコンパクトになります。
⑪安全ベルト	車いすから体がずり落ちないよう腰を固定するベルトです。
⑫側板（サイドボード）	衣類等が車輪に巻き込まれるのを防ぎます。
⑬ティッピングレバー	段差を乗り越える際に踏む場所です。
⑭介助ブレーキレバー	介助者制動するためのブレーキです。

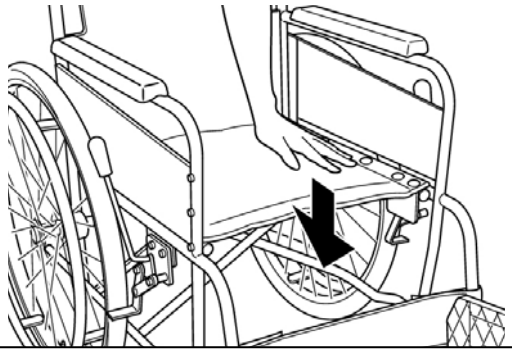
4.各部の操作方法および使用方法

車いすの拡げ方

①左右に拡げます。



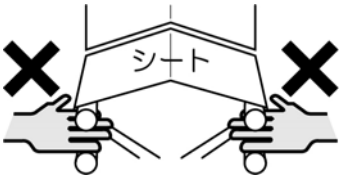
車いすの後方に立ち、左右の肘掛けを持って両側に軽く拡げます。



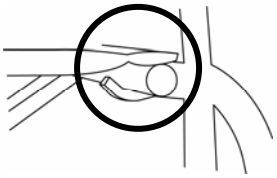
片方のフレームを持ち上げて車輪を少し地面から浮かせ、座面端のパイプ部分を手で押し下げます。

⚠注 意

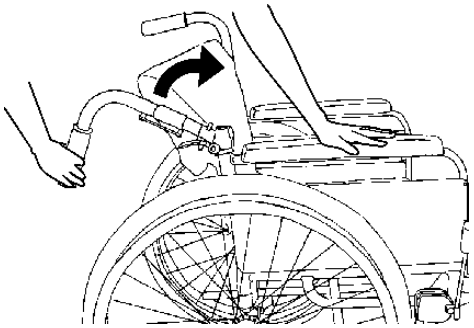
●座パイプの横や下に手や指を置かないでください。
挟まってケガをする恐れがあります。

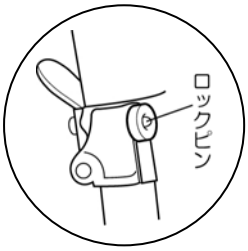


●シートパイプをシート受けに確実に入れてください。
フレームが変形して、事故の原因となります。



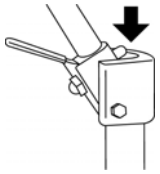
②背もたれを起こします。





ロックピンが完全にロックされている事を確認してください。

⚠注 意

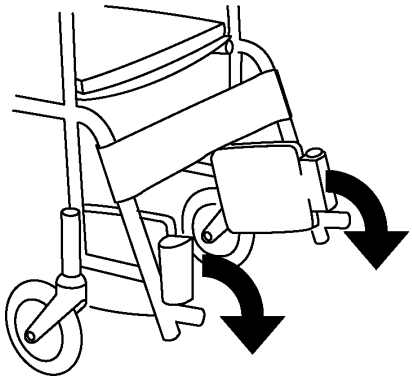


この部分に手や指を置かないでください。挟まってケガをする恐れがあります。

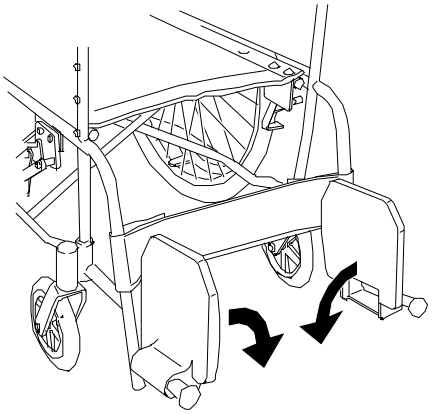
車いすの押手部分を持ち、上方（矢印の方向）へ引き起こすように持ち上げてください。
※このとき、片側の手で車いすが動かないように支えるか、あるいは駐車ブレーキをかけてください。

③ステップ板（フットサポート）を取り付け、調整します。

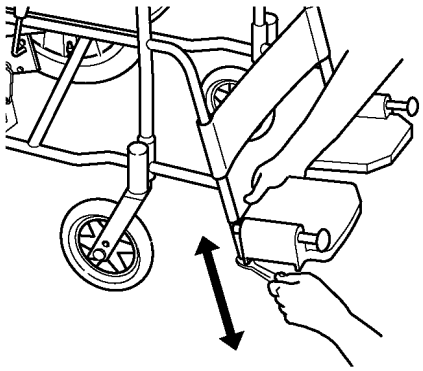
出荷時は、ステップ板（フットサポート）が外側に回転させて折りたたんでありますので、ステップポスト先端のボルトを少し緩め、内側へ回転させます。



ステップ板（フットサポート）を矢印の方向に引き出してください。



ステップ板（フットサポート）を内側にたおします。

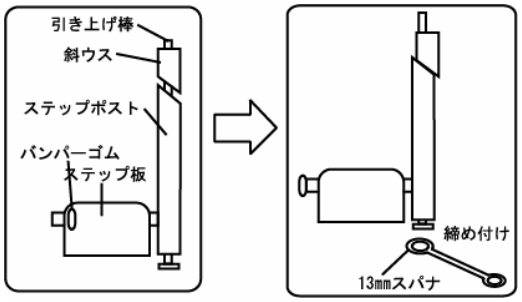


ステップ板（フットサポート）適当な高さに合わせた後、ボルトを完全に締めてください。

⚠ 警 告

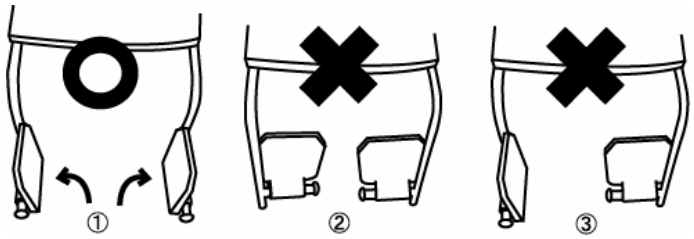
●ステップポストの高さは地面より 5 センチ以上でご使用ください。低すぎると凸凹路面や障害物にステップ板（フットサポート）があたり、転倒する恐れがあります。

●ステップセット先端六角ボルト部分をスパナでしっかりと締め付けてください。締めることにより斜めウスがズレてステップセットが固定されます。締付が弱いとステップセットが外れる恐れがあります。しっかりと固定されている事を確認してご使用ください。



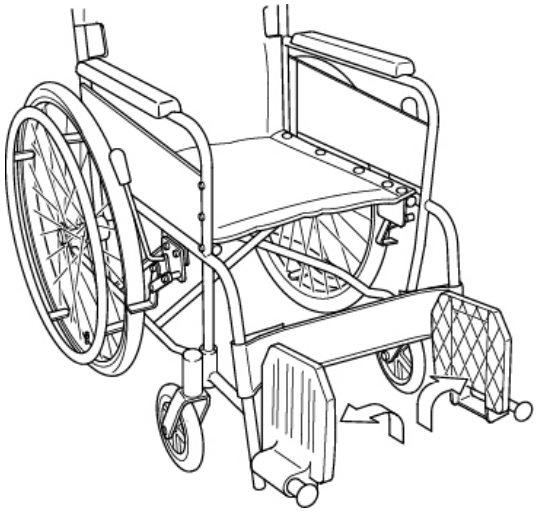
⚠ 警 告

●下図①のようにステップセットを固定してください。
●車いすを折りたたむ時は下図①のようにステップ板を跳ね上げてください。下図②,③のようにステップセットを取り付けると車いすを折りたたむときに干渉し正しく折りたためないため、フレームが歪み車いすに悪影響を及ぼす場合があります。前輪キャスタに干渉しキャスタが回転しにくくなる場合があります。

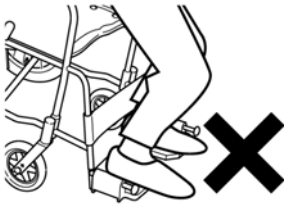


車いすのたたみ方

①ステップ板（フットサポート）を跳ね上げます。



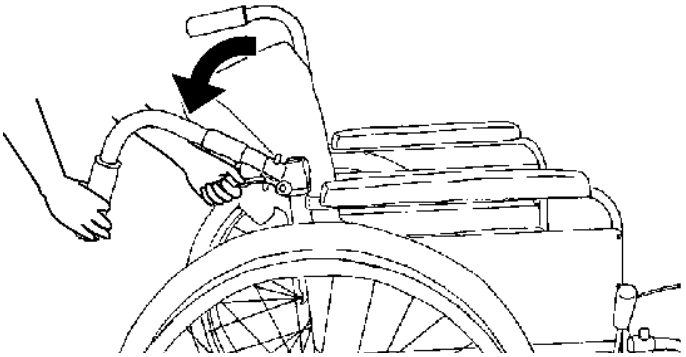
⚠ 警 告



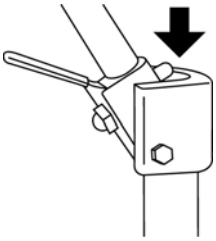
車いすから降りる際、絶対にステップ板（フットサポート）の上に乗らないで下さい。車いすごと転倒し、大変危険です。

ステップ板（フットサポート）を閉じるように上方へ（矢印の方向へ）跳ね上げます。
※ステップ板（フットサポート）を内側にたおした状態のままですと、折りたたみが出来ません。ステップ板（フットサポート）が上方へ上がっていることを確認ください。

②背もたれを折りたたみます。



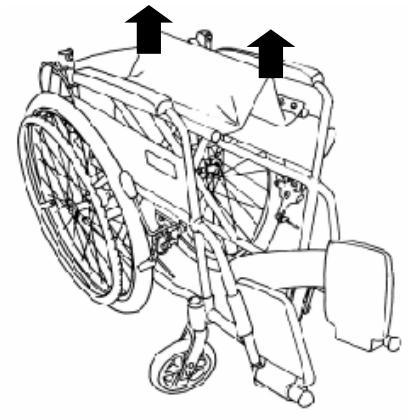
⚠注 意



この部分に手や指を置かないでください。挟まってケガをする恐れがあります。

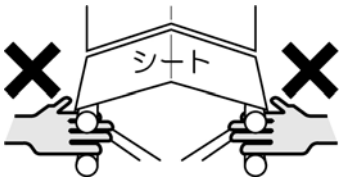
押手（手押しハンドルグリップ）を握り、一方の手で背折れ金具のレバーを後方へ引きながら押手（手押しハンドルグリップ）を倒します。

③シートを折りたたみます。



座シートの前方と後方の中央部を同時に持ち上げます。

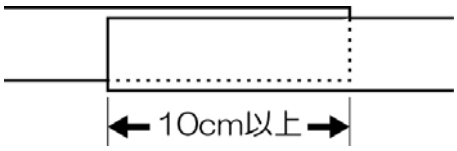
⚠注 意



座パイプの横や下に手や指を置かないでください。挟まってケガをする恐れがあります。

折りたたむ際に、押手を持って左右から押し縮めないで下さい。
フレームの破損の原因となります。

5.安全ベルトの使用方法



車いすに深く腰掛け、面ファスナーの接着部分を 10ｃｍ以上重ね合わせてしっかりととめてください。

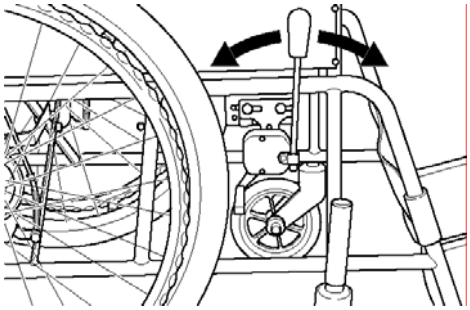
⚠ 注 意

●シートから落ちるおそれがあるので必ず安全ベルトを使用してください。転落事故の原因となります。
●面ファスナーに糸くず･汚れなどがついたときは取り除いてください。
接着力が弱まり、事故の原因となります。

6.ブレーキの使用方法

駐車ブレーキ

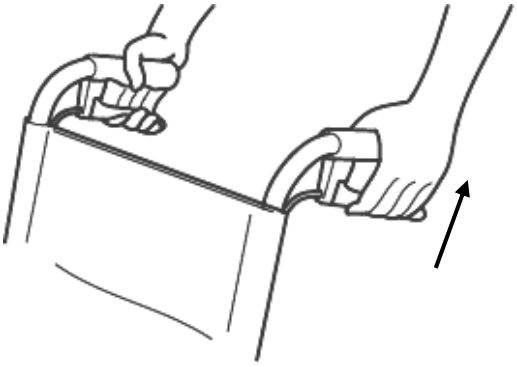
車いす乗降時には、必ず駐車ブレーキをかけて、車いすが固定されていることを確認してください。



ブレーキレバーを後方に引くとロックし、レバーを前方にすると解除されます。
※空気入タイヤをご使用の場合、空気圧が低すぎるとブレーキの効きが悪くなります。
目安として、タイヤを手で押してもやや硬い程度（軟式野球ボール程度の硬さ）に空気を入れてください。

介助ブレーキ

ブレーキレバーを握るとブレーキがかかり、離すと解除します。



走行中や下り坂での制動ブレーキとしてご使用ください。
ブレーキレバーは介助者の方が必ず両側同時にかけてください。

⚠ 警 告

※一ヶ月に一度は安全点検を行ってください。

●ブレーキの効き具合が強すぎたり弱すぎたりする場合は、ご使用を中止し販売店にご相談ください。

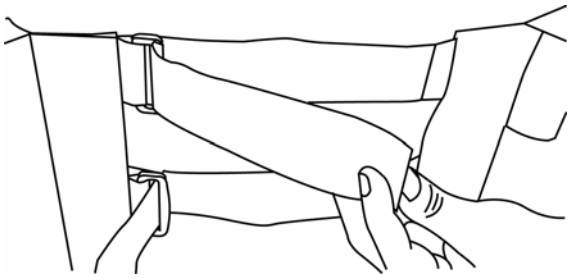
●ブレーキは必ず手で操作してください。足などで操作するとブレーキが破損します。

●ブレーキレバーの作動方向以外に力を加えないでください。また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形･破損する恐れがあります。（駐車ブレーキを握って立ち上がるような動作はしないでください。）

●坂道や傾斜地では駐車しないでください。駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があり、大変危険です。（滑り やすい床面などでは駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があります。）

●ブレーキワイヤーは、安全のために 1 年に 1 度定期的に交換してください。

7.シートの調整方法



背・座ベースシートの調整ベルトを、ご利用者の体型に合わせて張り調整し、背・座クッションを乗せます。これを利用することにより、背中・お尻にゆとりができ乗り心地が大変よくなります。

⚠ 注 意

- 座ベースシートを張りすぎるとシートパイプ受けにシートパイプが収まらなくなる場合があります。
- 背ベースシートを張りすぎると背パイプが中央に寄ってしまい、背もたれ幅が狭くなってしまいます。また、フレームの変形の原因にもなります。
- 面ファスナーに糸くず・汚れなどがついたときは取り除いてください。接着力が弱まり、事故の原因となります。

8.お手入れの方法

★金属部分（フレーム、車輪等）

フレームなどの金属部は、乾いた布でよく汚れを落として、乾いた布で拭き取ってください。スポークの通常のお手入れは、水を用いずに汚れを落とす程度で十分です。凹凸のある部分の汚れ、頑固にこびり着いた汚れは、市販の中性洗剤を用いてください。

★樹脂（プラスチック）部

樹脂（プラスチック）部品には、市販の中性洗剤をご使用ください。

★クッション、シート類

シート部分をぬるま湯で拭き、きれいな水で仕上げ拭きを行い、乾かしてください。市販されている防水加工用のスプレーなどを用いての防水加工をお勧めします。防水加工を行う場合は、ご使用になる防水加工用商品の説明書をよくお読みください。

＜汚れがひどいとき＞

- ●汚れがとれにくい場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後、水で濡らした布で洗剤を拭き取ってください。
- ●しみは、スポンジまたは柔らかいブラシを用いて取り除いてください。
- ●洗う場合は、ぬるま湯で手洗いしてください。洗濯機、乾燥機の使用はお避けください。
- ●クッション表面に面ファスナー（オス）が接触しないようにしてください。（クッション生地のほつれ、けばだちの原因となります。）

《お手入れの上のご注意》

- ●中性洗剤を使用してください。（中性洗剤以外の洗剤を使用すると、変質・変色・傷みの原因となります。）
- ●シンナーやベンジンなどの揮発性のものは使用しないでください。（変質・変色・傷みの原因となります。）
- ●たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しないでください。（傷み原因となります。）

9.車いすの保守、点検

１ヶ月に一度は安全点検を行ってください!!

★タイヤに空気は充分入っていますか？

空気入りタイヤをご使用の場合は、空気圧にご注意ください。目安として、タイヤを手で押してもやや硬い程度（軟式野球ボール程度の硬さ）に空気を入れてください。空気圧が低すぎると駆動が重くなり、またブレーキの効きが悪くなります。高すぎるとクッションが悪くなります。

★タイヤの溝は十分認識できますか？

タイヤの減りが激しいものはパンクの原因になったり走行性やブレーキの効きが悪くなるので交換が必要です。また、タイヤやキャスタのひび割れにもご注意ください。

★ブレーキはしっかり効きますか？

タイヤの空気圧が下がると駐車ブレーキの効きが弱くなります。空気圧のチェックとともにブレーキの取り付けネジの緩み、ブレーキ本体のガタなどがないかご確認ください。もし異常がございましたら、直ちにご使用をお止め頂き、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

★変な音がしませんか?

変な音がする場合、どこでその音が発生しているかをご確認してください。キャスタ・車輪のベアリング部の油分が不足しているなどの原因が考えられます。原因が不明な場合、修理不可能な場合はお買い上げの販売店までご連絡ください。

★四点接地していますか？

前輪二輪と大車輪二輪が接地しているかご確認してください。四点接地していない場合、フレームの歪みやネジの緩みが考えられます。

★ネジの緩みはありませんか？

ガタがある場合は、ネジの緩みや脱落が考えられます。ネジが緩んでいたら必ずしっかりと締めてください。締めてもすぐ緩む、締まらないなどの不具合があれば、直ちにご使用をお止め頂き、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

★シートに破損やたるみ、いたみはありませんか？

車いすは湿気に弱いので、雨にぬれる場所に放置していたり、長時間続けてご使用になるとシートに破損・たるみが発生します。座り心地を損ない姿勢が保ちにくくなりますので、たるみ・破損が著しい場合は交換をおすすめします。

★きちんと折りたためますか？

折りたたみに異常がある場合、クロス金具のネジの緩みや摺動部分の油切れが考えられます。ネジの締め付け、給油を行ってください。

★フットサポートはしっかり固定されていますか？

付属品のスパナを使って、ステップパイプ先端のボルトを緩め、適当な高さに合わせた後、ボルトを完全に締めてください。

★車輪やキャスタはしっかり固定されていますか？

車輪を留めているボルト、キャスタを留めているボルトは緩んでいませんか？緩んでいると使用中突然車輪やキャスタが外れて転倒するなど大変危険です。充分ご確認の上、しっかりと締めてください。

★洗浄の際には、水、お湯または中性洗剤をお使いください。

洗浄後は乾燥させてください。カビやサビの原因になります。強いオゾンで消毒されますと、タイヤが変色や、劣化の原因になります。

★ブレーキワイヤーは切れていませんか？（バンドブレーキ付のみ）

安全のために、１年に１度定期的に交換してください。

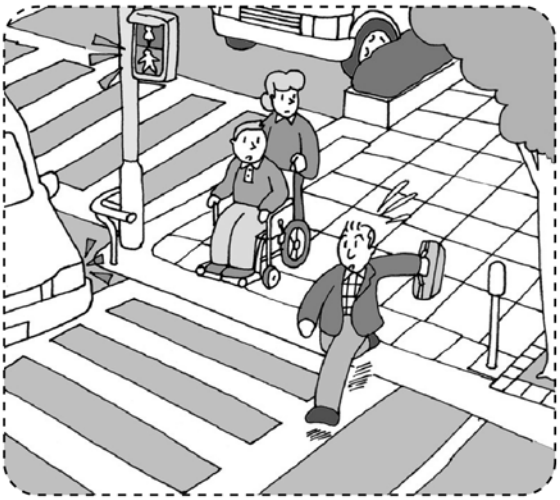
異常が見つかったらご使用を中止してください。

10.車いすの主な乗り方<各部の点検･保守方法>

⚠ 警 告

●タイヤの空気が十分入っているか確認しましょう。
●下り坂は加速がつき危険です。いつでもブレーキがかけられるよう慎重に。
●いきなり公道に出るのは危険です。屋内や庭など安全な場所で練習しましょう。
●車道はできるだけ通らず、歩道や十分な幅のある路側帯を通りましょう。

車いすは歩行者として取り扱われます。
歩行者としての交通ルールを守りましょう。



●「自転車及び歩行者専用」、「歩行者専用」のマークのある歩行者専用道路も通ることができます。
●信号機のある場所では、「青」が点滅中に横断するのは危険です。次の「青」信号を待ちましょう。

★焦らずゆとりを持った横断、
走行を心掛けましょう。

★移乗

車いすに乗る方を介助者がベッドなどから移す方法です。
双方にとって安全で負担の少ないことが重要です。

介助者が片足を相手の膝の間に差し込んで、腰を支えながら立ち上がらせます。

介助者の膝で相手を支えながら、車いすの方へお尻を向ける。

ゆっくりと腰を下ろしてもらう。※「いち、にのさん」と声をかけながらおたがいに協力し合いましょう。

★外出　車いすの安全な使い方は、“ゆっくり”“確実に”と“安全ベルト着用”が基本です。

坂道

＜上り坂＞
押す人は身体を少し前に倒して、押し戻されないよう、一歩ずつしっかりと押します

＜下り坂＞
坂を下るときはブレーキを軽く使いながら、後ろ向きに一歩ずつ下ります。
また、安全ベルトを必ずご利用ください。

段差のある場所

＜上がるとき＞
ティッピングレバーを踏んで前輪を上げて進み、続いて後輪を押し上げます。
＜下るとき＞
後ろ向きでまず後輪をおろし、ティッピングレバーを踏んで前輪を上げたまま後進し、ゆっくりと下ろします。
※階段では車いす全体を持ち上げてください。

電車の乗り降り

＜乗るとき＞
ティッピングレバーを踏んで前輪を上げ電車に前輪を乗せます。次に後輪を持ち上げて直進します。ホームと電車の間は大きな車輪でもはさまることがありますのでご注意ください。電車のなかでは車いすを固定させて柱につかまるとよいでしょう。

＜降りるとき＞
後ろ向きに進みます。後輪を上げてホームにおろし、ティッピングレバーを踏んで前輪を上げて後進します。

11.仕　様

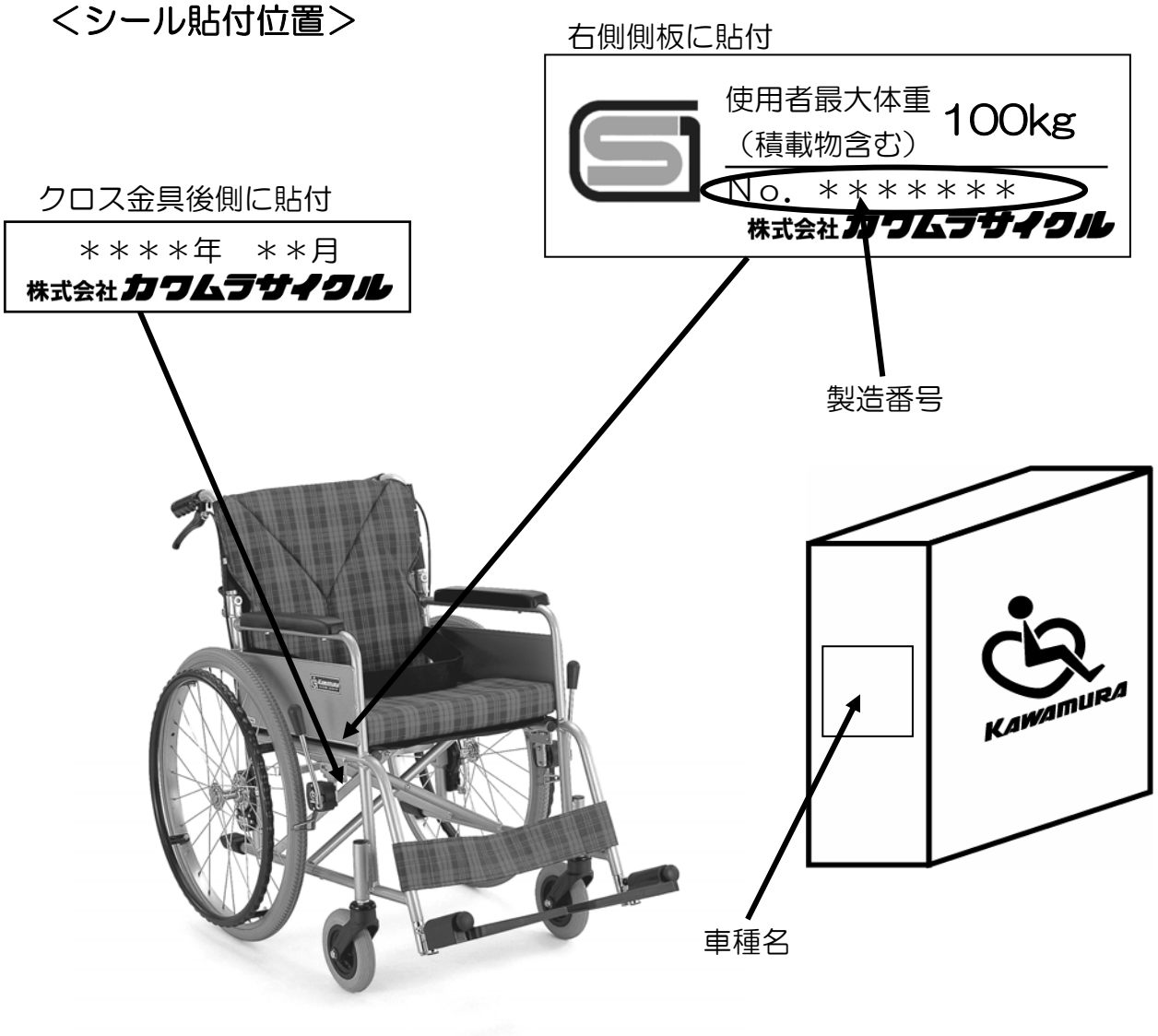
品名・名称	標準仕様・規格	
	FA22	FA16
座　　幅　　（mm）	３８０・４００・４２０	
前座高さ　　（mm）	４３０	
脚部長さ　　（mm）	３４０ ～	
後座高さ　　（mm）	４００	
シート奥行き　　（mm）	４００	
背もたれ高さ　　（mm）	４４０	
肘掛け高さ　　（mm）	２３０	
全高　　（mm）	８６０	
（折りたたみ時）（mm）	６５０	
全幅　　（mm）	620・640・660	580・600・620
（折りたたみ時）（mm）	３３０	２８０
全長　　（mm）	1,０３０	1,０００
（折りたたみ時）（mm）	９３０	８５０
使用者最大体重　　（kg）	１００	
重量　　（kg）	１３．９	１２．３
後車輪（駆動輪）	２２in　バンド式 ハイポリマータイヤ 黒樹脂ハンドリム	１６in　バンド式 ハイポリマータイヤ
（タイヤ）　（ｲﾝﾁ）	ハイポリマー２２x1-3/8	ハイポリマー　１６x1.50
キャスタ（前車輪）	６インチ　ソフトタイヤ・パッキン式樹脂ヨーク式	
フレーム	アルミ製　　平面式クロス	
背シート	適合調整式　　ポリエステル製	
座シート	適合調整式　　ポリエステル製	
座クッション	アンカークッション（ポリエステル）	
肘掛け（アームサポート）	固定式	
（肘当てパッド）	ウレタン製　黒色	
（側板）	アルミ製　黒色	
ハンドグリップ（にぎり）	φ２２mm 用　黒色（反射板付）　PVC 製	
レッグサポート	固定式	
レッグレスト	黒：ポリエステル	
フットサポート	J.ステップセット（前後式）　黒色樹脂製・φ１６用	
（ステップ板）	d.樹脂製　黒色	
（ステップポスト）	φ16mm　メッキ　スチール　前後式	
（バンパーゴム）	合成ゴム製　黒色	
駐車ブレーキ	A.ミニ駐車（前後）式	
（にぎり）	合成ゴム製　黒色	

１２.製造番号

アフターサービスなどを的確に受けるため、製造番号を記録しておいてください。
車体番号は車体後方の車体カバーに貼り付けられています。

車　　種	
製 造 番 号	
製　造　月	年　　月

＜シール貼付位置＞



13.保証

★保証書

この商品には保証書を別途添付しております。保証書（返送用登録はがき）に所定の事項を記入のうえ、商品購入後１ヶ月以内に弊社へご返送ください。
保証期間はお買い上げ日より１年間です。

★補修用性能部品の最低保有期間

弊社はこの商品の補修用性能部品を製造打ち切り後、５年保有しています。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

★修理のご依頼

異常がある場合は、ご使用を中止しお買い上げの販売店にご依頼ください。

★保証期間後

お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって商品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

★保証の適用除外となる場合

（ａ）ご使用による消耗品および取扱不注意による破損
　例）タイヤの磨耗およびパンク、ワイヤー、シート、フットプレートの破損等
（ｂ）地震、台風、水害などの天災および事故、火災による焼失・破損
（ｃ）お取扱の不注意、操作未熟ならびに故意または過失など誤って使用されたことによる破損
（ｄ）保全上の不備および弊社の特約販売店以外で行った修理や改造等による破損
（ｅ）弊社が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損
（ｆ）一般に車いすが走行しない場所、または特殊な状態での使用による破損

地球の環境保護のため、
廃棄するときはそのまま放置しないで
各自治体の取り決めにしたがってください。

株式会社カワムラサイクル
KAWAMURA

■本社	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地３−９−１	TEL078-969-2800
■本店サービスセンター	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地３−９−１	TEL078-969-2820
■さいたまサービスセンター	〒338-0002	さいたま市中央区下落合7-11-2	TEL048-832-0168
■東京サービスセンター	〒110-0013	東京都台東区入谷１−８−３	TEL03-3874-3511
■横浜サービスセンター	〒220-0073	横浜市西区岡野２−12−９	TEL045-290-9585
■名古屋サービスセンター	〒487-0027	愛知県春日井市松本町１−３−11	TEL0568-52-4800
■大阪サービスセンター	〒564-0044	大阪府吹田市南金田２−20−10	TEL06-6190-8488
■福岡サービスセンター	〒819-0055	福岡市西区生の松原１−18−３	TEL092-882-4722

■神戸工場　■神戸第二工場　■いなみの工場　■メンテナンスセンター

修理・お手入れ・お取扱いなどのご相談は、まずお買い求めの販売店へお申し付けください。

・転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、上記へ。

2006.6